

航空戦を制する"必中"の眼

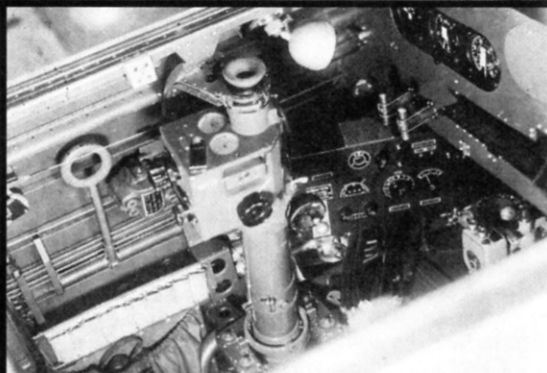
# 日本照準器 開発史

軍用機の性能を語るとき、  
照準器について触られることは少ない。  
しかし、いかに強力な火器を搭載しようとも、  
精度の高い照準器なしでは命中は望めず、  
その意味で照準器は、軍用機の価値を決める  
重要なデバイスである。

日本は、先行する欧米の光学技術を  
模倣しながら独自開発への戦いを続けた。

文・作図・写真協力=野原 茂

ガンカメラの照準に捉えられた  
陸軍九七式戦闘機。ガンカ  
メラの照準イメージは射撃照  
準器のそれとは若干異なるが、  
パイロットはこのような照準  
イメージを通して敵機を狙う。



(写真左) 鏡筒にレンズを組み込んだ光学(望遠鏡)式照準器を装備した陸軍九七式戦闘機。機構式(照門・照星の2点合致式)に代わり  
装備が進んだ。(写真中) 主に零式艦上戦闘機に装備された光像式の九八式射撃照準器。ドイツ製照準器を模倣したものだが、日本の  
照準器開発に与えた影響は大きかった。(写真右) 海軍の艦上攻撃機「天山」一型に装備された九〇式爆撃照準器。航法・爆撃手席に  
装備された。

